信頼の絆で共に伸びゆく新時代 ― 全印工連の CSR マガジン

Shin

2026.10
vol. 26



特集

MUD FAIR 2026 リポート

CSR 認定企業紹介

広島 **株式会社ニシキコネクト**

CSR と DX を駆使してつながりを生む障害者雇用から地域に開かれた会社へ

埼玉 **株式会社秀飯舎**

CSR 認定取得を足がかりに拡大するグループ企業で社会的責任を模索

CSR トピックス

ENEOS と日本製紙、第 2 世代バイオエタノールの実証プラント建設へ
カスハラ対策の強化など 10 月 1 日に改正法が施行
みずほ銀行等グループ 中堅・中小企業の再エネ導入を支援
コニカミノルタ「スキルシェア制度」を導入
経産省、コンテンツ制作向け生成 AI 活用ガイドを公表
日本コカ・コーラ、自販機でラベルレス製品の販売開始
再春館製薬所、主力化粧品の包装材を紙製に切り替え
コーポレートガバナンス・コード 5 年ぶりに改訂
協同印刷、「せきえほんコンクール」が 10 周年迎える
TOPPAN と長野県飯綱町　防災情報共有のデジタル化を実証

全日本印刷工業組合連合会

特集

MUD FAIR 2026 リポート



大勢の来場者で賑わうMUDフェアの展示コーナー

全印工連では情報アクセシビリティの向上に貢献するため、約20年前からメディア・ユニバーサルデザイン（MUD）に取り組み、2008年1月には特定非営利活動法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会（MUD協会）を設立しました。2026年7月24日・25日の2日間、「MUD FAIR 2026 ～理解と行動をデザインする、コミュニケーションの最適化をめざして～」というタイトルの下、全印工連・東京都印刷工業組合・MUD協会・日本洋紙板紙卸商業組合が主催となり、3年ぶり2回目となるMUDフェアが開催されました。

今回はMUDフェア2026全般のリポートと、7月24日にMUDフェアのトークセッションとして行われたMUD協会理事長浦久保康裕氏の特別セミナーについて詳しくお伝えします。

第2回MUDフェア開催！

MUDフェア2026は、初開催となった2023年のMUDフェアと同じく、東京都立産業貿易センター浜松町館において、入場無料のイベントとして2026年7月24日・25日の2日間にわたり行われました。初回と大きく異なるのは、紙と印刷の魅力を伝えるペーパーサミットと同時開催になった点です。

ペーパーサミットでは、紙ならではの魅力的なアイテムを販売・紹介する100店以上が出展したマーケットブース、紙わざ大賞受賞作品などを展示したギャラリーコーナー、紙に触れて遊べるワークショップエリアなどが設けられました。

MUDフェアを含むペーパーサミットの来場者数は4125名（主催者発表）を記録し、印刷業界関係者だけではなく、デザインを学ぶ専門学校の学生や夏休みの宿題の参考に訪れた小学生と保護者の方など、様々な方で賑わいました。

MUDの歩みと可能性

MUDフェアの展示コーナーでは、「認知のバリアフリーから社会参加のバリアフリーへ」をテーマに、MUDのおよそ20年に及ぶ歩みと、具体的な取り組みがパネルで展示されました。具体的な取り組みについてのパネルは、「生活・ウェルビーイング」「企業広報・IR」「行政サービス・公共情報」「教育・エンターテイメント」の4つのゾーンで構成され、それぞれの分野でどのようにMUDが活用されているのか、数多くの事例が紹介されました。

「生活・ウェルビーイング」ゾーンでは、MUDを取り入れることにより言語や認知の

壁を感じずに旅を楽しめるユニバーサル観光の事例や、医療やセルフケア支援の現場で「見てわかる」情報設計の手法が紹介されました。具体的な事例として、カラーユニバーサルデザイン配色とUDフォントを全サインに採用した成田国際空港や、精神的不安を抱える若者に届くよう設計された株式会社ココラボの自殺予防の絵本「STOP！自殺」などが取り上げられました。

「企業広報・IR」ゾーンでは、なぜ企業がMUDに取り組むべきか、サステナビリティ（持続可能性）や障害者雇用の観点から解説し、企業の情報を単に開示するだけでなく、読まれる報告書を目指す際のチェック項目が提示されました。また、公民連携のMUDの事例として、2023年にリニューアルされた渋谷区の公式Webサイトが紹介されました。渋谷区ではモリサワのUDフォントを採用し、スマートフォンでも視認性が高いサイトを実現して、2023年グッドデザイン・ベスト100にも選出されました。

「行政サービス・公共情報」ゾーンでは、東京都のユニバーサルデザインガイドラインを解説すると共に、愛知県や静岡県のUDの取り組みが紹介されました。行動につなげるMUDの具体例として、OSPグループの大阪シーリング印刷株式会社が作成した「避難所設営シールセット」が取り上げられました。同商品はシールを貼るだけで災害時の避難所設営ができる備蓄品で、2025年にシールの種類は増やしつつコストダウンするリニューアルが行われました。



見やすさだけでなく行動につながるデザインが求められるMUD

「教育・エンターテイメント」ゾーンでは、「わかってる。でも、動けない」状態から、情報が人を動かす仕組みとして、ゲームやデザイン要素を仕事や勉強、健康といったゲーム以外の分野に応用する「ゲーミフィケーション」、そして動きやすい形を先に設計する「ナッジ」の概念を実際に体感できる試みがなされました。

カードゲームで勉強体験

MUDフェアのワークショップスペースでは、株式会社キッズプロジェクトのカードゲーム「勉ゲー」を体験できるコーナーが設置されました。「勉ゲー」とは、知育から大学・研究レベルまで、あらゆるジャンルの勉強で対決する2025年発売のカードゲームシリーズです。

スタッフの方に伺ったところ、特に人気の商品は、地図から都道府県名を当てる「めくって めくって都道府県」で、MUDフェアでの販売分が第四版となるそうです。お子さんだけでなく大人の方も、実際に興味があるカードを手に取って、ゲーミフィケーションを楽しみながら体感していました。


キッズプロジェクトが開発した「勉ゲー」やアナログゲーム

MUDコンペティションは今年も開催

展示コーナーの一角では、2026年で開催20回を数えるメディア・ユニバーサルデザイン（MUD）コンペティションの軌跡と、社会への影響についての展示も行われました。受賞作品の傾向として、コンペ開始当初はUDフォントやカラーを使用した視認性改善に主眼が置かれた作品が多かったものの、回が進むごとに行動設計や体験型・インタラクティブ提案の受賞作が増え、MUDの深化が受賞作からも見て取れました。

併せて、第20回MUDコンペティションの募集案内が正式に発表されました。なお、2026年の第20回MUDコンペの募集期間は、10月1日から12月4日までとなっています。



2026年で20回目の開催となるMUDコンペティション

MUDの未来を考える特別セミナー

MUDフェア初日の7月24日には、産業貿易センター浜松町館4階第三会議室にて、MUD協会理事長の浦久保康裕氏による「新しいMUDが描く誰一人取り残さない未来」と題した特別セミナーが行われました。前半は浦久保理事長によるMUDの現在の課題についての講演、後半は株式会社キッズプロジェクト代表取締役小林一博氏も参加し、対談形式でセミナーが行われました。

浦久保理事長が「現在の社会課題にどのよう

に対応すれば、MUDがもっと力を発揮できるのかということを皆さんと共に考えていきたい」と、熱気に満ちた満席の聴衆に語りかけ、セミナーはスタートしました。

浦久保康裕MUD協会理事長

まず問題提起をさせていただきたい。人はなぜ動かないのか、行動しないのか。そして、そういう人たちに対して、MUDはどのように対応していけばいいのか。情報は届いている、知識もある、それでもやらない。こういう人たちに対して、どのように情報を伝えて、行動変容させるか。避難所マップを作製しても、見ているだけでは避難しないわけですね。これが我々MUD協会の近年の課題でした。

そこで人が動けない、もしくは動かない理由を3つの層と7つの構造に分類して考えました。

まず第1層が、受信側の問題。月に1冊も本を読まない人が2024年の時点で62・6％もおり、特に長文を読んで理解する力が低下していると考えられます。また、発達特性がある児童も多様化・増加傾向にあります。そして、外国人の数も急増しており、在留外国人は約340万人、訪日外国人も年間4000万人を超え、多言語対応などがなされていなければ、こういった方たちには言語のバリアによって情報が届いていないわけです。

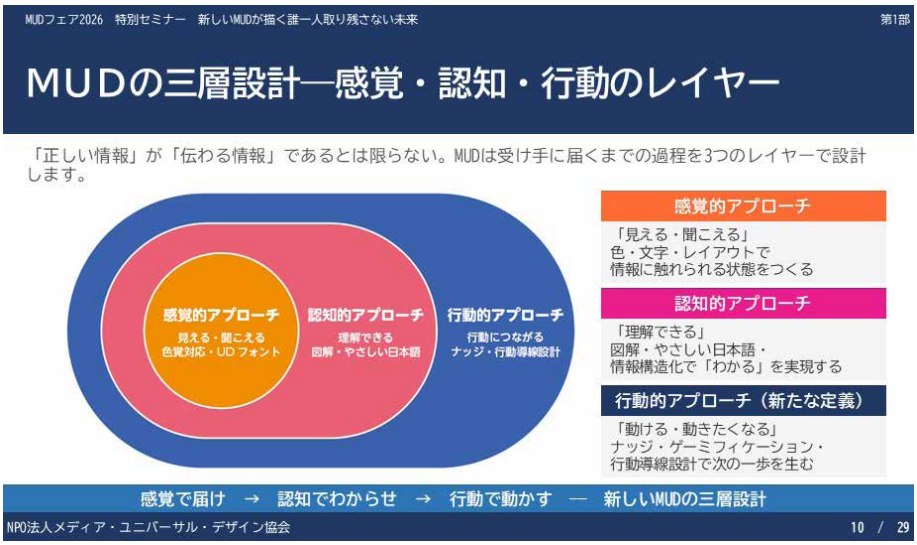
第2層が情報設計の問題ですね。情報の入り口だけ設計され、メニューは色々書いてあるけれど、結局何をしたらいいのかわからない。2024年の能登半島地震では、被災者の30％以上が欲しい情報にアクセスできなかったとの調査があります。情報難民が生じているということです。命の危険がある人であっても情報につながることができないのは、大変な問題です。

第3層が心理・脳の問題です。第1層や第2層にも関連しますが、人間は現状維持志向が強い。また、情報過多に陥るとアクションへの意欲が落ち、行動を起こさなくなってしまいます。

浦久保　そういったなかで、MUD協会はUDフォントや色覚調整等を通して、見える・聞こえるといった感覚的アプローチをベースに、イラストややさしい日本語を採用し、認知的アプローチに対しても、この20年間、調査や研究を行ってきました。

それらに加えて、これからは行動的アプローチ――動ける、もっとやりたい、楽しそうという形で、行動のバリアを取り除くアプローチをMUD協会としては考えていかなくてはならない。ここまでやって初めて、我々が作っている情報伝達物は意味があるのではないかと考えております。

行動へつなげるというところでは、ゲームがひとつのヒントになります。例えばeスポーツは年齢も空間も越えて、子どもからお年寄りまで楽しむことができる。他にもヒントになる事例を挙げさせていただくと、第18回MUDコンペティションで経済産業大臣賞を獲得された佐川印刷株式会社の「手で見る絵画（2.5D ART Printing）」ですね。これは絵画が立体的に印刷されていて、視覚障害者の方が絵に触れて体験することができます。印刷技術としても非常にユニークですし、完成度が高い作品になっています。



浦久保氏が考察する「人を動かす」アプローチ（特別セミナーのスライドより）

東京メトロ路線図は、MUD協会で20年ほど前に作成させていただいたものです。色だけでなく記号や線の太さを変え、日本に320万人いると言われる色覚障害の方でも誤認しにくい設計となっており、感覚アプローチの代表作だと自負しております。

熊本市では、給付金申請書を図解フローチャートと「今日やること3ステップ」形式に全面再設計し、コールセンターの問い合わせが

40％減ったそうです。特にお年寄りにとってわかりにくかった手続きをわかりやすくした上、市の人件費を削減することに成功しました。

他に行政の事例で言うと、大阪市生野区では「やさしい日本語」を行政情報の基本方針に採用しています。生野区にはなんと60か国からやってきた外国人が住んでいるんですね。やさしい日本語で情報を発信しないと、伝わらない。伝わらないと、役所の電話や窓口に問い合わせがきてしまう。業務が滞ってしまうのを予見し、それを防止することも重要だと思います。

今は小学校でもＳＤＧｓを習いますが、ご家庭で取り組む際にわかりやすくておすすめなのがダイオーミウラ株式会社のＳＤＧｓアドベントパズル「みんなでつなぐ17ピース」。これは第19回ＭＵＤコンペティションの経済産業大臣賞を獲ったものなんですが、毎日ミッションを達成しつつＳＤＧｓを学べる設計になっています。わかりやすいといえば、札幌市立大学大学院の大学院生が作った「お口すこやかビンゴ」も、口腔ケアの知識をビンゴ形式でわかりやすく、そして楽しく学べるようになっています。

セミナー前半の最後にご紹介したいのが、株式会社ＩＤが作成したゴミ分別アプリ「さんあ～る」です。なんと１４００以上の自治体で採用されているので、皆さんがお住まいの地域でも使われているかもしれませんね。プッシュ通知でゴミ出しの日を教えてくれるだけでなく、今はゴミの分別も複雑ですが、そういったこともゲーム形式で学べるようになっています。

本日ご紹介したのはごく一部ですが、自社の製品がどういった状況で使われているかというところにも思いを馳せて、動線設計をお考えいただければ幸いです。

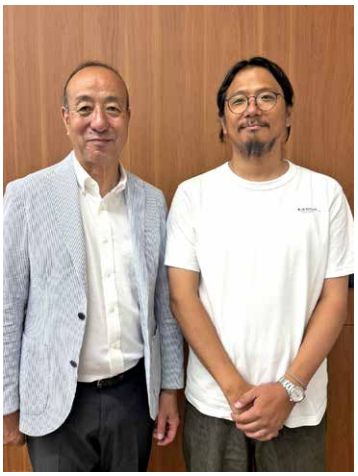
ＭＵＤとゲーミフィケーション

特別セミナーの後半は、株式会社キッズプロジェクト代表取締役小林一博氏も加わり、主にゲーミフィケーションの観点からＭＵＤの可能性について対話されました。

キッズプロジェクト代表取締役小林一博氏　キッズプロジェクトの小林と申します。ゲーミフィケーション、ゲームのノウハウの部分を利用したファミリー向けのコンテンツサービスの開発専門チームをやっております。

浦久保　本日小林さんに来てもらったのは、ゲーミフィケーションと行動変容を起こすためのきっかけ作りを組み合わせてお話ししたかったからなんです。子どもがゲームに没頭する理由、強制しなくても動こうとする設計の本質はどこにあるのでしょうか？

小林　楽しいから、ではないでしょうか。ゲームというルールがあるなかで競うのが好きだから没頭する子もいますが、今はゲームもアプリで新しいものや海外のコンテンツを無料ですぐダウンロードできてしまう。ゲームに没頭しているというより、没頭できる環境が子どもたちに用意されていると思います。昔のように一本のカセットゲームしか与えられない状態だと、それをやるしかなかったけれど、今はどれに没頭するかというのを子どもが取捨選択できる状態になっていますね。



ＭＵＤ協会理事長浦久保康裕氏（左）とキッズプロジェクト小林一博氏

浦久保　自分で没頭するものを簡単に得られる時代に、「楽しいからやる」を印刷や紙メディアに落とし込むにはどうしたらいいでしょう？

小林　アナログコンテンツもデジタルコンテンツもたくさん開発させていただいていますが、紙ならではの良さとして、手触りがあるのはもちろん、必ず対面のコミュニケーションが生まれるというのは大きいですね。アナログのコンテンツを介した直接的かつ近距離で行うコミュニケーションのメリットはどこなのかということを、ターゲットに合わせて設定しています。

浦久保　何か行動を起こすときに生じる感情障壁――難しい、面倒くさい、私には関係ない――といったものを除去する設計の手法はあるのでしょうか？

小林　除去するというより、面倒なことをやりたくなる仕掛けを考えるのが大切だと思います。むしろ面倒な方が楽しいとか、一人でやるのが怖いものなら強制的に複数人でやる環境設計にするとか。除去ばかり重ねていくと、本当にシンプルなものしか残らなくなってしまうので、選択肢を狭める結果につながってしまいます。つまらないからやめるのではなく、つまらないものをつまらなくないものにさせるためにどうするか、というのを考えていくというのが設計手法の１つになると思います。

全印工連CSR認定企業訪問

株式会社ニシキコネクト

CSRとDXを駆使してつながりを生む障害者雇用から地域に開かれた会社へ

本　社：広島県広島市西区商工センター7丁目5番33号　創業：昭和42年（1967年）従業員数：35名
代表者：宮崎真　認定取得：2025年12月（スリースター）https://www.nishiki-c.co.jp/

――まずはニシキコネクトの事業内容と強みを教えてください。

宮崎真代表取締役　ニシキコネクト、旧ニシキプリントは伯父が創業した会社で、私が三代目にあたり、来年2027年で創業60周年を迎えます。

印刷会社本来の強みとは、印刷物を通して人と人をつなげることです。弊社は、印刷業だけでなく福祉業にも注力しており、社会や地域のつながりを生み出していきたいという信念のもと、2025年6月にニシキプリントからニシキコネクトへと社名を変更しました。実は、ニシキコネクトという名前は社内公募で決まったもので、私も応募しましたが却下されました（笑）。紙を中心とした印刷業から変化していかなければならないという社員の強い意志があらわれた社名だと思います。

弊社は、創業時より〝本づくりのニシキプリント〟として、いわゆる文字もの、モノクロの冊子印刷が強い会社として、官公庁や学校関係を中心にお取引してきました。現在も文字組みに関しては、オペレーターの8割が国家検定である技能検定の1級プリプレス技能士を取得しており、弊社の強みになっております。また、創業間もない頃からご縁があって障害のある方を雇用してきた経緯があり、多様性を認める社風と素敵な社員がいることも強みだと自負しております。

――CSRという考え方が浸透する以前から、障害者雇用を積極的に行ってきたのですね。

宮崎　障害のある方を雇用してきた背景は、主に労働力の確保としてでした。DTPが導入される前の印刷業は、分業で手作業でしたよね。とにかく人手が足りないところ、たとえば片手が不自由な方でも、紙の押さえ方を工夫すればできる作業が多くありました。

障害のある方に働いてもらっていたことが、結果的に会社の拡大へつながったこともあります。メインの取引先である広島大学が段階的に広島市内から東広島市へ移転することになり、弊社も東広島に拠点を設けようという話が持ち上がりました。平成元年に東広島市の中核工業団地に東広島工場を建設した際、障害のある方を多数雇用していたことから重度障害者多数雇用事業所の認可を取得、助成金を申請して工場を建てることができたのです。

――貴社は2021年にCSR認定ワンスター、2023年にツースター、そして2025年にスリースターと、順調に認定を取得されています。CSR認定を取得しようと思ったきっかけは？

宮崎　会議所自体は異なりますが、青年会議所の先輩で当時全印工連のCSR委員会委員長だった浦久保康裕さんが、たまたま私の障害者雇用についての講演会を聴きに来てくださいました。その時「こういった活動をしているならぜひCSR委員会へ来てほしい」と言われまして。当時はCSRという言葉の意味すらよく理解できていませんでしたが、CSR認定制度を監修している影山摩子弥先生に弊社の取り組みについて話すうちに、弊社が本質的な意味でCSR認定の条件を満たしていることに気づきました。

ワンスターは自己申告の書類審査



「素敵な社員がいることが強み」と語る宮崎代表取締役

のみで取得できます。そこで横着することもできますが、せっかくだから自社の強みと弱みを発見しよう、そしてその強みを深化していこうと考えました。ワンスターでもCSRを実践していくことは可能ですが、事業方針の中にCSRを取り込み、推進力を持って遂行するために、CSR認定の更新審査が行われる2年毎にツースター、スリースターと段階的に認定を取得してきました。

マーケティング事業部デジタル戦略課課長　吉澤美保　CSR認定の申請書類の作成を担当しましたが、ワンスターからツースター、そしてスリースターとステップアップするたびに要求されるエビデンス資料の難易度が上がり大変でした。ただ、エビデンスを取るために従業員アンケートやお客様アンケートを実施し、なかなか表に出てこない不満などを見える化できたことは収穫でした。2025年度のサステナビリティレポートでは前年度のアンケート結果との比較を初めて行いましたが、どの項目も改善していることが分かりました。以前は離職する人も多かったですが、この二年間は離職者がゼロとなっています。

――貴社は就労継続支援A型事業所およびB型事業所の運営に携わっていると伺いました。

宮﨑　以前の印刷業界は人海戦術を取っていたので、創業者の伯父は戦力として迎えられるのであれば障害の有無を問わず働いてもらおうという姿勢でした。最も多い時期は、障害者の従業員が25名ほどいました。その後DTPが普及し、印刷工程に人手がそこまでいらなくなったことや作業のミスマッチが影響して、2012年頃には7名にまで減ってしまいました。

　そのタイミングで障害者雇用を止めるという選択肢もあったと思いますが、弊社は「愛・信・怨」――互いに思いやり、信じ合い、怨し合う心を創始の精神としています。障害を持つ方のためにも、地域貢献のためにも、なんとか雇用を維持できないか方法を模索していたところ、福祉事業としてであれば継続できるのではないかと考えました。

　そこで別法人として、2012年に一般社団法人「東広島自立支援センターあゆみ」を、2013年に就労継続支援A型事業所の「サポートセンターあゆみ」を、2014年には「サポートセンターめばえ」を開所するに至りました。また、2023年には弊社内に就労継続支援B型事業所の「ワークサポートひなた」を開所しました。

　現在3事業所合わせて54名が働いています。さらに障害者手帳をお持ちの方4名に事業所の職員として働いてもらっています。



「サポートセンターめばえ」の作業の様子

サポートセンターめばえ管理者・サービス管理責任者　小宮有紀　「サポートセンターめばえ」は、ニシキコネクト本社社屋1階にあり、現在17名の方と雇用契約を結んでいます。プレスグループでは、午前9時から午後2時半まで封入作業や宛名シール貼りなどの手作業で行う軽作業をしていただいています。プレスグループ以外にも、DTP・事務を行う方や営業として活躍されている方もいます。

　発注いただくこと自体が社会貢献につながるということで、官公庁からの発注も多く、行政関係の発送物を多く受注しています。上階にニシキコネクト本社があることから、連携して発送物のデザイン・印刷、発送作業を行うことができるのが強みですね。

――印刷業と福祉業を両立するためにどういったことを心掛けているのでしょうか？

宮﨑　印刷業界自体が縮小している今、会社の戦略として、福祉事業と印刷事業をうまく掛け合わせることを意識しています。その二つの柱が、CSRとDXですね。

　東広島自立支援センターあゆみでは事業再構築補助金を利用し、2024年にグループホーム「ライフサポートあおい」を開所しました。知的障害のある方が一人暮らししようとしても、賃貸物件がほぼ借りられません。事業所で働いている方に軽度の知的障害者が多いという事情もあり、そういう方たちの自立支援につながるよう、障害のある人の共同生活を援助するグループホームを開所しました。定員6名で現在2名が入所しており、もうすぐ3人目の方が入所予定です。福祉的側面はもちろんありますが、弊社の社宅としての側面もあります。

　この「ライフサポートあおい」の建物内には、居住スペースとは別にキッチンとトイレが完備された20畳ほどの部屋が



「ライフサポートあおい」の建物外観

あり、地域の方も利用いただけます。また、グループホームの食事や家事のサポートを行う世話人は、近隣にお住まいの高齢者の方にお願いしており、大変助かっております。コミュニティスペースの提供や高齢者の雇用創出という観点からも、多少なりとも地域に貢献できているのではないかと思っています。

他にも、規格外や収穫過多で出荷できない野菜を弊社で買い取り、主にB型事業所「ワークサポートひなた」のメンバーで箱詰めして出荷する「広島のばぁちゃんから届くハコ」という野菜の定期宅配を始めました。福祉事業所で定期的に発生する仕事を探していたところ、農家の方を紹介してもらって始めた企画です。東広島工場の食堂を使って箱詰めし、発送しています。

発注があった分だけ野菜を買い取るのでロスはなく、農家さんにも還元できる。現在農業を継続するのは高齢化や原材料費の高騰で困難が多いですが、少しでも現金収入があるのなら、もう少し続けてみようかなと思ってもらえる可能性があります。これも地域の持続可能性という観点から、地域課題解決の一助になればと思っています。


「広島のばぁちゃんから届くハコ」の梱包作業

「広島のばぁちゃんから届くハコ」を始めたのは、弊社のECサイト「安芸ん堂」の運営チームです。「安芸ん堂」は、自分たちが作りたい、売りたい、良い商品を扱っていこうという精神から始まりました。自社オリジナル製品の他に、なかなか全国にアピールする場を得られない広島の商品も販売しています。自社製品を販売していると、「この商品を売っているのなら、こういう商品を作ることはできますか?」と新しい仕事の受注につながることもあります。先日開催されたペーパーサミットも、「安芸ん堂」として出展しました。


あぶらとり紙の包装紙を
型抜きする様子

1番売れているのはあぶらとり紙ですね。弊社のECサイトの他に、宮島サービスエリアにも置かせていただいています。あぶらとり紙の包装紙はA型事業所で型抜きをしており、福祉事業所の手作業を活用しています。印刷業と福祉事業、お互いの強みを生かしてデザインや企画ができますというアピールになっていると思います。

――グループホームの地域住民向けフリースペースをはじめ、地域に開かれた会社を目指しておられるそうですね。

宮﨑　昨年の7月には、地域に弊社をPRするため、「ニシキコネクト杯タミヤミニ四駆大会」と銘打ち、東広島工場でミニ四駆工作教室とミニ四駆レースを行いました。東広島市教育委員会の後援をいただき、小学校でチラシを配布して、近隣の小学生と保護者の方15組が参加してくださり、大変盛り上がりました。

地域へのPR活動にもう少し本格的に取り組もうと、今年の8月は東広島市内の工場4社合同で「ひがしひろしまオープンファクトリー2026モノづくり大冒険!」を開催します。地域おこしの一環でもありますし、子どものときに会社や工場へ来てもらって「地元にこういう会社があったよね」と記憶に残すことができれば、将来的に人材の獲得にもつながるかもしれません。地方の中小企業は社員を募集しても、本当に人が来ないんですよ。まずは知ってもらおうと、今回は4社ですが、最終的に30社程度集まって地域おこしとしても盛り上げていきたいです。これも地域貢献、CSR活動として印刷会社ができることだと考えています。



ニシキコネクト杯タミヤミニ四駆大会

――障害者雇用、そして地域に開かれた取り組みと、常に地域に根ざした目線で企業活動に取り組んでおられるのですね。

宮﨑　従来の大型印刷機は熟練したオペレーターが必要でしたが、DXが進みデジタル印刷機が普及するにつれ、製造の主役になれる人が増えました。福祉事業所の利用者さんにとっても、もっと活躍の場が広がる可能性があり、今まで満足できる収入を得られていなかった方でも、弊社なら収入を得られるかもしれない。製造の部分も含めてDXすることで、これまでであれば雇用が難しかった方でも雇用できるようになる、それも十分にCSR活動だと言えるでしょう。

株式会社秀飯舎

本社：埼玉県さいたま市西区飯田70　創業：大正3年（1914年）　従業員数：63名
代表者：清水 郁男　認定取得：2026年6月（ツースター）

CSR認定取得を足がかりに拡大するグループ企業で社会的責任を模索

――本日は秀飯舎のCSR認定申請を担当しておられる管理部渉外室室長の加藤達也さんにお話しを伺います。まずは秀飯舎の沿革と、事業内容や強みを教えてください。

加藤達也管理部渉外室室長　秀飯舎は2023年に株式会社エス・ワイ・エスのグループ企業となった会社です。エス・ワイ・エスは特殊印刷の技術を活かし、主にトレーディングカードの製造を、グループ企業間で連携して一体となって行っています。エス・ワイ・エスのグループ企業は秀飯舎の他に、福島県会津若松市に拠点を置く北斗印刷株式会社、マレーシアにあるGorin Technical Industryがございます。私は元々エス・ワイ・エスの社員で、工場長として現場で経験を積み、現在、秀飯舎およびエス・ワイ・エスの管理部渉外室室長を兼任しております。

秀飯舎は大正3年創業と、大変歴史のある印刷会社ですが、2023年にエス・ワイ・エスのグループ企業になる以前は、地場のポスターやチラシ、冊子物を扱う、いわゆる商業印刷の会社で競合他社との差別化を図ることが難しく、経営的にも厳しい状態が続いている状況でした。

私が最初、エス・ワイ・エスの社員として秀飯舎の工場へ伺ったときには、何十年前の機械なんだろうと驚いてしまうような年季の入った印刷機が現役で動いていました。さらに驚いたのが、そういった古い印刷機が大変きれいに使われていたんですね。油性オフセット印刷機を使用する際、紙同士が癒着するのを防ぐスプレーパウダーを吹き付けるため、機械周りが真っ白になってしまっていることが多いんですが、パウダーの汚れが全くなかった。長年印刷に関わる方ならではの職人魂を感じました。

ペーパーレス化が進む昨今、チラシやパンフレットといった商業印刷や冊子作製などの入札案件のみで印刷会社を経営していくのは、単価競争も激しく、また人件費や原材料費の高騰のあおりを受け、かなり厳しい状況にあると思います。

秀飯舎も従来の印刷業のみでは、社員の生活を支えていくのがかなり厳しい状況でした。そこで、エス・ワイ・エスグループへグループインし、エス・ワイ・エスで印刷した印刷物を秀飯舎へ運搬し、その後の加工――カードの断裁・並び替え・ピロ包装を行っています。現在、秀飯舎は印刷機を所持していません。特殊機によるトレーディングカード加工のノウハウ、また、新たな試みへの柔軟な姿勢が今の秀飯舎の最大の強みです。



秀飯舎が加工を担当するトレーディングカードのサンプル


加藤管理部渉外室室長

――CSR認定を取得しようとしたきっかけは？

加藤　私がCSRを担当する以前ですが、エス・ワイ・エスでは2016年にCSR認定ワンスターを取得していました。それは社内でも周知の事実だったのですが、特段目立ったCSR活動は行われていませんでした。ただ、トレーディングカード事業が好調で、グループ会社も拡大していく中、社会的責任も増し、企業としての価値を向上させるためにもSDGsやCSRにも取り組んでいかなくてはならないと認識していました。特に秀飯舎は、いずれの認証も未取得の状況にありました。特段求められることもありませんでしたので、取得する必要もなかったんですね。

そうしたなかでグループ企業として社会的責任を実行していく基盤を作っていきたいと考えたとき、まず全印工連のCSR認定を足掛かりにすることにしました。秀飯舎は2025年にワンスターを取得し、2026年にエス・ワイ・エスと共にツースターを取得するに至りました。ワンスターは書類審査だけでしたが、ツースター以降は現地審査があります。社員の間でもCSRの理解に濃淡がありますので、社内コミュニケーションツールを利用して、ビジョンや方針を適宜共有し、浸透を図っています。将来的にはスリースター取得も目指していきたいので、社員一丸となって実践していくことが重要と考えています。

実は、エス・ワイ・エスも秀飯舎もCSRツースター認定を取得しようとした当初、取り組みを評価するチェックリストを自己採点した際、全く基準に満たない低い点数が出てしまったのです。ただ、チェックリストは加点方式を採用しています。全印工連や影山摩子弥先生からアドバイスをいただいたり、自ら調べたりしながら、秀飯舎として何ができるかを多角的に検討していきました。

――具体的にはどういった点からCSRに取り組まれたのでしょうか。

加藤　トレーディングカードの場合、第一にプロダクト自体の品質が求められます。もっとも、高品質であることはカード製造では大前提です。

次に取り組むべきは、法令遵守や財務管理といった内部統制だと考えました。トレーディングカードはステークホルダーとして大手玩具メーカー様がいらっしゃるので、コーポレートガバナンス面の監査は厳しくなります。品質だけでなく社員の労務環境も、グローバル企業がクライアントとなると、資料提出にとどまらず実態も必要です。我々としても、お子様たちが喜んで遊ぶカードを作る企業として、さまざまな面において規範にならなくてはならないと考えております。

労務面では、当然ですが残業時間を管理し、適正な勤務時間を徹底しております。他には労災防止対策も個別に対応するようにしています。たとえば工場だと機械が稼働しているので、どうしてもある程度の騒音が発生します。そのため聴覚保護具を身に着けてもらうのですが、耳栓型がいい人もいれば、イヤーマフ型を好む人もいます。働く方に合わせて、そういったものをチョイスできる体制を採っております。

――トレーディングカードといえば、近年レアカードの価格高騰がよく話題に上ります。情報面でも高いセキュリティ意識が求められるのではないでしょうか？

加藤　情報セキュリティ面としては、特にトレーディングカードの製造においては、発売前のカード1枚が流出しただけで甚大な損害が生じますので、秘密保持が極めて重要です。社員は会社で取り扱っているカードの情報について、SNSを含めて一切他言しないよう要求されます。トレーディングカードは薄くて小さいものですから、持ち出すのが容易ですよね。そのあたりもかなり厳しく管理しています。カードのゴミひとつ廃棄するのも、気を使います。

――環境問題の観点で取り組んでいることはありますか。

加藤　弊社ではカードのリサイクルに注力しています。トレーディングカードは大きく分けて2種類あり、カードに銀蒸着やPPフィルムといった表面加工を施したいわゆるレアカードと、表面加工されていないノーマルカードがあります。

再生紙の原料にできないレアカードや包装用のピロフィルムは、破砕機で粉砕し、成形機にかけてRPFと呼ばれる固形燃料にリサイクルし



カードやフィルムをリサイクルして
製造されたRPF

ています。ノーマルカードは溶解し、再生紙の原料として主にダンボールに再利用されています。分別を徹底しリサイクルすれば、環境保全になることはもちろん、リサイクル資源として買い取ってもらえるので、多少なりとも収入にもつながります。

エス・ワイ・エスが建設し、秀飯舎が業務を行う予定である現在建築中の大宮工場では、カーボンニュートラルに挑戦しています。太陽光発電を取り入れるほか、空気中の湿度をコントロールする省エネ型の空調システム、環境配慮型空調を導入する予定です。導入コストは高いですが、電気使用量を抑えられ、また室外機から排出する空気の温度も下げることができるため、ヒートアイランド現象の抑制にもつながります。



現在建築中の大宮工場の完成予想図

工場を建築する際、近隣住民の方にご理解いただくことが重要ですが、環境配慮型空調はコンプレッサーを搭載しないため、低周波騒音が発生しないという点も、近隣の方へのアピールになります。

大宮工場では、環境への配慮だけでなく、働きやすい環境を構築することにも取り組んでいます。工場の3階には、ガラス張りで開放感のある従業員用食堂を併設する予定です。食堂の各テーブルには充電用のUSBポートを備え、短期間の派遣社員の方が「またここで働きたいな」と思ってもらえる環境を目指しています。

その為、派遣さん用の待合ルームを完備し、セキュリティ面ののみならず、待機時間も快適に過ごしていただく環境を整備しました。

現在車椅子ユーザーの従業員はいないのですが、将来を見越して車椅子専用のエレベーターも設置します。大宮工場は来年4月の竣工を予定しております。

――新たに工場が建築されること自体が雇用創出という地域貢献になっているかと思いますが、他に何か地域貢献活動はなさっていますか？

加藤　秀飯舎はさいたま市西区飯田に拠点を置いております。道を挟んだ向かいにアジサイで有名な足立神社があり、自治会主催の夏祭りには寄付いたしております。以前は足立神社主催で様々な催し事が行われていたそうですが、氏子の高齢化の影響を受け手が回らなくなっているところを、秀飯舎としてお手伝いしていくことを考えています。


会社見学の様子

昨年11月には秀飯舎の近隣にあるさいたま市立植水小学校の2年生の児童が「まちたんけん」で弊社を訪問しました。20分にわたり印刷物とは何か、さらに印刷物は〝網点〟でできていることを中心に説明しました。ルーペで網点を観察すると、きれいな点の並びに大興奮。帰りにはメモ帳などのお土産を大喜びで受け取ってくれました。挨拶やお礼も元気よく、とても礼儀正しい子どもたちでした。今後も地域交流を大切にし、受け入れを続けてまいります。

弊社は今年6月にツースターを取得したばかりで、CSRに本格的に取り組み始めたところです。今回お話ししたことも、これから行う計画段階の内容が多かったかと思います。

以前の弊社と同じように、CSRに取り組む必要性を感じつつも、どこから手をつけていいのかわからないという企業は今も多いでしょう。そういった企業にとって、CSR認定を目指すことは、自社ができる社会的責任を発見するためのきっかけのひとつになると思います。

サステナブルな社会の実現

「文字を通じて社会に貢献する」という理念のもと、
モリサワは持続可能な社会の実現に向け、SDGsに取り組んでいます。
お客様やパートナーとともに、社会課題の解決に貢献します。

モリサワのサステナビリティ活動についてはこちら



モリサワ

印刷会社向け情報発信サイト

RICOH
imagine. change.

Print Compass を使って
ビジネス拡大しませんか？



サイトをお使い頂いているお客様の声

紙はもちろん、それ以外にも印刷会社ができそうな新規事業に繋がる発見がたくさんありました!

常にチェックしています。どんどん情報発信されてるのが嬉しいですし、メールで新着情報を教えてくれるのが助かってます

印刷会社向けの補助金情報が集まっているサイトは少ないので重宝しています

クライアントの本音が満載のアンケート資料は、なかなか自分では聞きにくい貴重な情報です!

印刷業の未来を共に創る

インサツのこれからをかんがえる
Print Compass Powered by RICOH

メルマガ配信中
印刷業界のこれからに役立つコラムやセミナー・イベントの開催情報をお届けします

プリントコンパス 検索

「第20回 MUDコンペティション」作品募集のお知らせ

全日本印刷工業組合連合会では「すべての人に優しく、誰もが快適に利用できること」を目的として、デザインや文字など、より多くの人に伝わる情報を提供する「メディア・ユニバーサルデザイン（MUD）活動」に取り組んでいます。

本コンペティションは今回で20回目の節目を迎えます。この取り組みをより強固なものとするために、「第20回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション」を開催し、高齢者・障がい者や子ども、外国人などに対して見やすさ・伝わりやすさに配慮した、さらには受け取った人の行動につながる、アイデアに富んだ作品を募集します。

募集期間

2026年10月1日（木）～12月4日（金）［当日消印有効］

応募資格

一般の部： プロ・アマを問わず、どなたでもご応募いただけます。
学生の部： 大学・短期大学・専門学校・高等学校に在籍している学生・生徒。

募集部門

❶ **見やすさ部門**
色・文字・レイアウト・印刷加工により「見える・読める・手に取りやすい」を実現した作品

❷ **わかりやすさ部門**
図解・やさしい日本語・情報整理により「読んで理解できる」を実現した作品

❸ **行動デザイン部門**
読んだ人が「次の一歩」を踏み出せる仕掛けを設計した作品

❹ **デジタル連携部門**
ＱＲ・ＡＲ・アプリなどにより、紙とデジタルをつないだ作品

募集作品［例］

高齢者、障がい者、子ども、外国人などに対して、見やすさ・伝わりやすさに配慮したデザイン手法を用いて制作されたもの
（カレンダー、地図、パンフレット、サイン、パッケージ、チラシ、ポスター、ラベル、カードゲームなど）

※過去の受賞作品はこちらのQRコードからご覧いただけますので、応募の際の参考にしてください。↑

応募方法

出品申込フォームに必要事項を入力し、作品1点とデータ1点（ai/eps/jpeg/pdf いずれかの形式でアウトライン化して保存したもの）をお送りください。データはギガファイル便等のファイル転送サービスをご利用のうえ、メールにてご提出願います。

出品料

一般の部： 3,300円（応募作品1点につき）
学生の部： 無料

作品応募・お問合せ先

［出品申込フォーム］下記QRコードより **［メール］**mud-competition@aj-pia.or.jp
［現　物］以下宛先へご送付ください。

〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8　日本印刷会館４Ｆ
全日本印刷工業組合連合会　MUDコンペティション担当係
TEL　03-3552-4571

ＥＮＥＯＳと日本製紙、第２世代バイオエタノールの実証プラント建設へ

ＥＮＥＯＳと日本製紙は９月３日、木質資源や古紙などを原料とする「第２世代バイオエタノール」の普及に向け、包括的パートナーシップを拡大すると発表した。２０２７年度中の実証プラント建設を目指し、原料の安定調達から製造、用途開発まで連携する。

第２世代バイオエタノールは、サトウキビやトウモロコシなどの可食原料を使わず、未利用の木質資源や難再生古紙を活用できる。持続可能な航空燃料（ＳＡＦ）や化学品の原料としての利用も期待されている。製紙会社が持つ原料調達・パルプ化技術と、石油会社が持つ燃料製造・供給網を組み合わせ、国産資源による循環型の燃料・素材供給体制の構築を目指す。

カスハラ対策の強化など10月1日に改正法が施行

労働施策総合推進法が10月１日に改正され、カスタマーハラスメント（カスハラ）対策の強化、就活ハラスメント（求職者等セクハラ）防止の義務化が事業主に求められるようになった。

顧客等からの著しい迷惑行為（カスハラ）への対策は、労働者を雇用するすべての事業主が対象となる。今回の改正では、相談体制の整備など、雇用管理上の措置が新たに位置づけられ、強化された。事業主はカスハラへの対応方針を明確化する必要がある。

また、就職活動中の学生やインターンシップ生など、求職者等に対しても、セクシュアルハラスメントを防止するために必要な措置を講じることが事業主の義務となった。就活生に対するハラスメント対策とあわせて、企業の対応義務が広がる。

みずほ銀行等グループ中堅・中小企業の再エネ導入を支援

みずほ銀行、三井物産、e-dashは９月、企業の再生可能エネルギー導入とＧＸ推進を加速するための連携協定を締結した。みずほ銀行の顧客基盤と金融機能、三井物産の事業ネットワーク、e-dashのCO_2排出量可視化・削減支援サービスを組み合わせる。

中堅・中小企業では、排出量を把握できても、具体的な削減策や再エネ調達、設備投資の進め方が分からないケースが多い。３社は、排出量の可視化から削減計画の策定、再エネ電力や環境価値の調達、資金面の支援までを一体的に提供する。大企業から取引先へ脱炭素対応を求める動きが強まるなか、サプライチェーン全体の排出削減を後押しする。

コニカミノルタ「スキルシェア制度」を導入

コニカミノルタは、高度な専門スキルを保有する人材を事業横断で活用する「スキルシェア制度（社内副業）」を２０２６年７月から導入した。社員が所属組織にとどまりながら、自らの意思で他部門の業務に参画できる仕組みで、社内におけるスキルと業務ニーズのマッチングを通じて、事業の成果創出と社員の成長機会の拡大を目指す。

特定領域における専門人材の不足や、短期・スポットで発生する高度スキルニーズへの対応が課題となる一方で、社内に専門性や多様な経験を持つ人材が存在するものの部門を越えて十分に活用されていない側面があった。正式導入に先立ち、２０２５年から全社トライアルを実施し、検証を行った結果、成果を確認できた。

制度では、事業部門が提示する業務テーマに対して社員が応募・参画する「募集型」と、スキルに基づき人材を指名する「指名型」の２つの方式を採用。勤務時間は１案件あたり最大20時間、業務に応じた追加手当を支給する。

経産省、コンテンツ制作向け生成ＡＩ活用ガイドを公表

経済産業省は、広告、ゲーム、アニメなどの制作現場を対象とした「コンテンツ制作のための生成ＡＩ利活用ガイドブック」を公表している。生成ＡＩを企画、文章、画像、動画などの制作に使う場面を整理し、著作権や契約、情報管理上の注意点を具体例とともに示した。

ガイドでは、ＡＩへの入力情報に機密情報や個人情報が含まれていないか、利用するサービスの規約上、入力・生成データがどのように扱われるかを確認することを求めている。また、生成物をそのまま使用せず、既存の著作物との類似性や、他人の商標、肖像などが含まれていないかを確認することも重要とする。印刷・デザイン会社にも、社内ルールと確認工程の整備が求められる。

日本コカ・コーラ、自販機でラベルレス製品の販売開始

日本コカ・コーラは、全国のコカ・コーラ自動販売機で「いろは

す 天然水 ラベルレス」の販売を10月から順次開始する。関連制度の一部緩和により単体販売（ばら売り）が可能になったことを受けたもの。

同製品は２０２０年から主にオンラインでケース販売され、ラベルを剥がす手間が不要で分別しやすい点が消費者に好評で支持されてきた。自動販売機での展開により、外出先でもラベルを剥がすことなくリサイクルボックスへ投入でき、利便性向上と屋外でのリサイクル促進が期待できる。

今回の制度改正では、ＰＥＴマークの認知向上などを踏まえ、資源有効利用促進法に基づく識別表示制度が見直され、一定条件の下でラベルレス ペットボトルの単体販売が解禁された。食品表示法ではキャップ部への表示で代替できるため、水など表示項目の少ない飲料を中心にラベルレス化の拡大が見込まれる。

再春館製薬所、主力化粧品の包装材を紙製に切り替え

再春館製薬所（熊本県益城町）と大塚包装工業（徳島県鳴門市）は、再春館製薬所の主力化粧品「ドモホルンリンクル」８点の外装パッケージをリニューアルし、包装材をすべて紙製に切り替えた。両社で開発・設計した自動包装システムの導入により、年間約30％のCO_2排出量の削減を見込む。

従来使用していたジッパー付きパウチや、タオル工場から出た残り糸を使用する残糸タオル、紙スリーブなどを見直し、環境負荷を低減しながら、ガラス瓶を保護する耐衝撃性や異物混入を防ぐバージン性、光や湿気から内容物を守る気密性といった化粧品包装に求められる機能性を確保した。紙にはＦＳＣ認証紙を採用し、リサイクル性も高めた。

コーポレートガバナンス・コード５年ぶりに改訂

金融庁と東京証券取引所は7月21日、「コーポレートガバナンス・コード２０２６年改訂版」を公表した。前回改訂から5年ぶり。形式的な体制整備にとどまらず、企業の持続的成長と中長期的な企業価値向上につなげる「実質化」を重視した。

改訂版では、取締役会が取り組むべき成長投資として、設備や研究開発に加え、人的資本、知的財産などの無形資産への投資を明記。事業ポートフォリオの見直しや、投資家との対話の充実も求めた。上場企業が直接の対象だが、取引先への情報提供やサプライチェーン管理にも影響する。印刷会社にとっても、人材、デザイン、コンテンツ、顧客データなどを経営資源として捉え直す契機となる。

協同印刷、「せきえほんコンクール」が10周年迎える

協同印刷（岐阜県関市）が運営する「せきえほんコンクール」が、２０２６年で第10回を数えた。地元の小学生、西部心音さんの『わくわく玉』が「せきえほん大賞」を受賞し、作品は絵本化された。

同コンクールは、絵本の制作を通じて、本の持つ魅力や故郷の素晴らしさを感じてもらい、子どもたちの豊かな心を育むことを目的としている。２０１６年の創業50周年を記念し、印刷会社が地域に恩返しできる事業として同社の小川優二社長と社員たちが発案した。子どもの読書推進に熱心な関市に相談したところ、コンクールの趣旨に市も賛同し、第１回から協力している。

毎回、関市を舞台に設定したテーマに沿って、子どもたちが自由な発想で物語を創作し、挿絵を描いて応募する。審査会を経て大賞、優秀賞、佳作を決定し、市立図書館で表彰式を行う。大賞作品は、協同印刷で印刷・製本されて絵本となり、３００冊が市内の小中学校や図書館、病院などに寄贈される。

大賞受賞者と家族を協同印刷の工場に招き、実際に作品が印刷される工程を見学してもらうことも続けている。

ＴＯＰＰＡＮと長野県飯綱町 防災情報共有のデジタル化を実証

ＴＯＰＰＡＮと長野県飯綱町は9月6日、町の防災訓練で、情報集約・発信サービス「ＰｏｓＲｅ」を使った防災情報共有の実証を行った。被災状況の投稿、情報の一覧表示、自動通知などを一つのシステムに集約し、従来の紙による運用を廃止した場合の効果を検証した。

災害時は、電話、紙、電子メールなど複数の手段で情報が寄せられ、転記や集計に時間を要することがある。実証では、現場から届く情報をダッシュボードで共有し、対応状況や意思決定の流れを関係者が確認できるようにした。印刷会社が培ってきた情報整理や伝達のノウハウを、自治体ＤＸや地域防災へ展開する事例といえる。

CSRに取り組むお客様の印刷製品づくりを応援するそれがCSRマークです。

CSRに取り組む印刷会社に仕事を頼みたい。
印刷製品にCSRに取り組んでいる**マーク**をつけたい。
でも、どこに発注すればよいかわからない。
そんな要望にお応えするのが
CSRマークです。
CSRマークは、印刷業界のCSR基準を達成した印刷会社がつけることができる信頼のマークです。

〈特徴〉

- ●公正で信頼できる制度
- ●CSR研究の第一人者である横浜市立大学の影山教授監修のもと設計された基準を達成した印刷会社を客観的に審査
- ●横浜市立大学CSRセンターが審査を実施し外部の有識者で構成される認定委員会で判定
- ●基準はすべてホームページで公開
- ●認定企業に発注すれば、無料でCSRマークの使用が可能
- ●CSRマークは印刷会社のCSRの取り組み度合いにより4種類
- ●認定番号管理により社会的信頼性を確保

■問い合わせ先
全日本印刷工業組合連合会CSR認定事務局
〒104-0041　東京都中央区新富1-16-8
TEL.03-3552-4571　FAX.03-3552-7727
https://www.aj-pia.or.jp/



印刷製品へのCSRマーク表示例

認　定　企　業　一　覧（2026年10月現在）

スリースタープレミアム認定（2社）			
石　川	㈱ＫＡＳＡＭＡ	福　岡	㈱丸信
スリースター認定（17社）			
宮　城	㈱ユーメディア	愛　知	㈱マルワ
福　島	㈱日進堂印刷所	滋　賀	アインズ㈱
千　葉	㈱太陽堂印刷所	京　都	㈲アドバンク
神奈川	㈱ココラボ	大　阪	㈱美生社
東　京	六三グループ	広　島	㈱ニシキコネクト
	文唱堂印刷㈱		瀬戸内海印刷㈱
	㈱ソウブン・ドットコム	香　川	㈱ミヤプロ
	弘和印刷㈱	福　岡	㈱博多印刷
愛　知	新日本印刷㈱		
ツースター認定（11社）			
山　形	精英堂印刷㈱	大　阪	トキワ印刷㈱
埼　玉	㈱秀飯舎		大興印刷㈱
新　潟	昭栄印刷㈱	広　島	㈱中本本店
長　野	亜細亜印刷㈱	愛　媛	愛和印刷㈱
東　京	㈱エス・ワイ・エス	福　岡	㈱ミドリ印刷
愛　知	半田中央印刷㈱		
ワンスター認定（114社）			
北海道	㈱ヒロミ産業	三　重	伊藤印刷㈱
	㈱アイテックサプライ	岐　阜	㈱岐阜文芸社
	㈱正文舎		ヨツハシ㈱
	北陽ビジネスフォーム㈱		協同印刷㈱
	㈱ホクラミ	富　山	第一共同印刷㈱
	山藤三陽印刷㈱		朝日印刷㈱
岩　手	川嶋印刷㈱		㈱ニッポー
宮　城	㈱東北プリント	石　川	ヨシダ印刷㈱
秋　田	秋田印刷製本㈱		㈱ダイトクコーポレーション
	㈱東海林印刷		㈱山越
	秋田協同印刷㈱		㈱大和印刷社
山　形	㈱青葉堂印刷	京　都	㈱太洋堂
	藤庄印刷㈱		㈱ムーブ
	北星印刷㈱		㈱やまとカーボン社
茨　城	大富印刷㈱		中西印刷㈱
	黒田印刷㈱	大　阪	相互印刷㈱
栃　木	足利印刷㈱		相互ビジネスフォーム㈱
	㈱井上総合印刷		㈱ソーエイ
群　馬	㈱銀星社印刷所		レスター工業㈱
	荒瀬印刷㈱		㈲サンエスタイプ印刷
新　潟	㈱ＤＩ Ｐａｌｅｔｔｅ		鈴木美術印刷㈱
	㈱プレスメディア		岡本印刷㈱
山　梨	相互印刷㈱		㈱新聞印刷
静　岡	日本レーベル印刷㈱		赤木印刷㈱
	㈱中央パッケージング	兵　庫	船場印刷㈱
東　京	池田印刷㈱		丸山印刷㈱
	㈱賢工製版		兵田印刷工芸㈱
	システム印刷㈱		大和出版印刷㈱
	㈱ウエマツ		㈱北星社
	㈱白橋	奈　良	㈱天理時報社
	㈱アドピア		㈱アイプリコム
	荏原印刷㈱		共同精版印刷㈱
	壮光舎印刷㈱	和歌山	㈱マージネット
	滝澤新聞印刷㈱		白光印刷㈱
	㈱木元省美堂	広　島	㈱ポップジャパン
	㈱ＴＯＮＥＧＡＷＡ		㈱アドプレックス
	㈱太陽堂封筒		㈱広瀬印刷
	㈱プライズコミュニケーション	愛　媛	㈱明朗社
	㈱光邦		東田印刷㈱
	音羽印刷㈱	高　知	ニヨド印刷㈱
	㈱ナカニワ印刷	福　岡	西日本ビジネス印刷㈱
	㈱研文社		アド印刷㈱
	㈱オフセット岩村		築上印刷㈲
	㈱エイジ		㈱伸和
	㈱久栄社		泰平印刷㈱
	東京平版㈱		井上紙工印刷㈱
	セントラル印刷㈱		ダイヤモンド秀巧社印刷㈱
	第一資料印刷㈱	佐　賀	鹿島印刷㈱
	山口証券印刷グループ	熊　本	㈱池田紙器工業
	㈱ザ・デジタルソリューションズ		㈱九州クラフト工業
	㈱武揚堂		ホープ印刷㈱
愛　知	木野瀬印刷㈱	宮　崎	㈱文昌堂
	豊橋合同印刷㈱	鹿児島	㈱鹿児島新生社印刷
	大信印刷㈱		㈱新生社印刷
	㈱クイックス	沖　縄	丸正印刷㈱
	富士凸版印刷㈱	組合員外	㈱荒川印刷
	㈱鈴木紙工所		阪本印刷㈱

※都道府県内は認定番号順

shin vol.26　2026.10.20
発行／全日本印刷工業組合連合会　東京都中央区新富1-16-8
TEL.03-3552-4571　FAX.03-3552-7727　https://www.aj-pia.or.jp

CSR P-00026
GREEN PRINTING JFPI P-A10020
この印刷製品は、環境に配慮した資材と工場で製造されています。